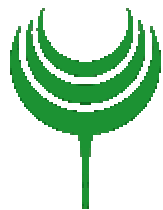


# 森川皮膚科通信



企画/編集：森川皮膚科医院  
<http://www.morikawa-hifu.com/>

12月12日(月)

No.12

## ステロイドの副作用2

早くも12月となり、今年1月に発行してからちょうど1年が経ちます。今回は前回に引き続きステロイドの副作用についてお話しします。多くのメディアで取り上げられ、脱ステロイドの書籍も多く見られますが、どの様な薬でも使い方を間違えると副作用が出現します。正しく使用すれば怖いことはありません。(院長 森川貴仁)

### シリーズ最新医療

#### ステロイドの副作用2

先月号で、ステロイドの総論と注意すべき副作用についてお話ししました。今回は前回に引き続き、リバウンドを避ける方法、および間違えやすい副作用についてお話しします。

#### リバウンドを避ける方法

前回、リバウンドが起こりやすいのは、塗り薬よりも、飲み薬である事、又、皮疹の再発がリバウンドに間違えられている場合が多いことをお話ししました。塗り薬でも、1ヶ月以上使用した際は、多少なりともリバウンドを気にする必要がありますでしょう。(飲み薬ほどのリバウンドはありません)ではどの様に避ければよいでしょうか。

#### 漸減する

漸減するとは、いきなりステロイドを止めるのではなく、ゆっくりと止めていくことです。具体的には、強いステロイドを使用している場合は、弱いステロイドに変更し、2週間から1ヶ月継続した後、非ステロイド薬に変更する、又は、数日に一度ステロイドを外用し、ステロイドを塗らない日には、非ステロイドを使用し、ステロイドを塗る間隔を伸ばしていくようにする事です。

内服のステロイドでも同様です。

但し、患者さん自身ではステロイドを調整しないで下さい。先ほどお話ししたように、リバウンドではないのに、リバウンドと間違われている場合が多く見られる事と、漸減するスピードが速すぎる場合があるからです。ステロイドを中止していく際は医師と相談の上進めるようにしてください。

#### ステロイドの副作用と間違われているもの

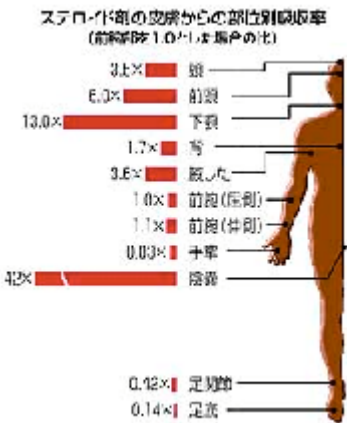
特にアトピー性皮膚炎の患者さんで、ステロイドの副作用と現在の状態を誤診してしまい、ステロイドに強い抵抗感を抱いていらつしやる方が多く見られます。具体的にはどの様な症状をステロイドの副作用と誤診してしまうか、多いものを以下にあげてみました。

#### 皮膚の苔癬化

苔癬化とはコケのように皮膚がゴワゴワになっている状態を言います。これは表皮の厚さが正常の状態よりも増えすぎてしまったために起こります。ステロイドでは皮膚は薄くなる副作用がありますが、皮膚が厚くなってしまう副作用はありません。

#### 皮膚の色素沈着

皮膚が部分的に茶色 黒色に変化するものです。この状態はかなりの方がステロイドの副作用と考えていらつしやいますが、殆どは



発疹後色素沈着といわれる湿疹が消失した後にはできる変色です。ステロイドの副作用として皮膚の黒色化というのがありますが、これは内服薬を長期使用した際、全身に色素沈着を起こすものです。副腎の腫瘍などで、異常にステロイドが増えてしまうクッシング症候群という病気があります。この患者さんでは全身の色素沈着が見られます。外用薬でこの様な色素沈着が起こることはまずありません。

#### アトピービジネスとステロイド副作用の関係

現在、様々なアトピーグッズが売られています。その全てが悪いものだとは思いませんが、ステロイドの副作用を大々的に取り上げ売り上げを伸ばしている商品もあるようです。少なくとも、あまりにも高額な商品は考える必要がありそうです。

**ステロイドを使用する際注意が必要な場合**

次のような場合には外用薬でも特に注意する必要があると思われる。

**小児**

子供は大人に比べて特に皮膚が薄いので、弱めのステロイドを使用する必要があります。ステロイドにもアンテドラックと言う血液中に入ると分解される種類がありますが、この様な薬品を用いる場合が多いです。

**密封療法（ODT）を使用する場合**

密封療法とは薬を外用した上からサランラップなどで覆う治療です。特にひどい場合に皮膚への浸透を良くする為に行います。当然ステロイドに密封療法を併用した際はそれだけ副作用も出やすくなりますから、注意が必要です。

**1ヶ月続けて強いステロイドを使用する場合**

ここで言う強いステロイドとは群以上のステロイドを同部位に1ヶ月以上使用する場合です。皮疹の種類によっては1ヶ月以上継続して使用しますが、必ず皮膚科医の指導の下で使用するようにしてください。（院長 森川貴仁）

**シリーズ医療保険情報**

**気になる治療費**

「こちらのコラム」では、気になる治療費やお会計などを中心に、保険診療のお話を掲載しております。

今回はお問い合わせも多い、皮膚科における各種検査料についてお話ししたいと思います。皮膚科の検査の中で、多い検査といえばアレルギーの検査や水虫の検査ですが、こういった検査のお会計はどんな保険点数が組み合わせている

のでしょうか？

水虫の検査は皮膚の一部を少しとって液で溶かしたものを顕微鏡で見て菌を見つけます。検査の保険点数は、顕微鏡検査、細菌塗抹と判断料で一六九点になり、三割負担の方ですと、五一〇円、老人保健をお持ちで一割負担の方は一七〇円、これに初診料や再診料が必ずプラスされます。

アレルギーの検査ですが、接触性皮膚炎のアレルゲン（化粧品、繊維、金属、薬、ゴムなど）を確定する為には、材料を生理食塩水に溶かして専用のテープで皮膚に貼布し二十四時間後、四十八時間後それぞれに皮膚の反応を見るパッチテストを、また主に花粉、ハウスダスト、食物などのアレルゲンに対して免疫抗体があるか調べるために血液検査を行っております。

パッチテストは、ご自分が調べたい材料をお持ち頂き来院していただきますが二日後と三日後も必ず来院していただきます。材料の十五種類まで保険適用で、その数によって費用が変わります。例えば化粧水やシャンプー、リンスなど十種類お持ち頂いた場合は、皮内反応検査十六点×十種類分（材料を溶かした場合は薬剤料が入ります）で一六〇点になり、三割負担の方ですと、四八〇円、これに初診料が再診料がプラスになります。また金属アレルギーのパッチテストのみ、薬剤料一五〇〇円は保険適用外ですので別途頂いております。

血液検査は調べたい項目数で費用が、変わってきます。例えば食物、雑草、かび、ハウスダストなどたくさん項目があります。最多の項目数でお調べすると保険点数は、二〇二〇点になり三割負担の方ですと、検査だけでも六〇六〇円になり、この他に診察料が入りますので、皮膚科の他の検査にくらべると、費用はだいぶかかることになりましたね。

こうした検査などの費用など、患者さまからのお問い合わせにお答えしていきますので来年からもどうぞ宜しくお願い致します。皆様どうぞ良いお年をお迎え下さい。

（受付事務 渡辺千夏）

**当院オリジナル石鹼  
発売中です**

全て天然成分です。

防腐剤フリー、発泡剤フリー、アルコールフリー

全成分 オリーブ油、パーム油、ココナッツ油、イランイラン、にがり

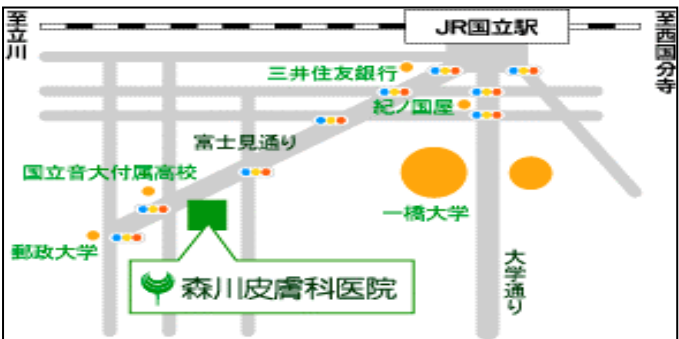
1個200円（1度に2個までとさせていただきます）

**お知らせ**

年始年末の休診について

12月29日より1月5日まで休診となります。

第3土曜午後は定期休診です  
12月17日（土）午後



TEL : 042-572-5183 FAX : 042-572-5112